

## 溶連菌感染症

高熱とのどの痛み、発疹が出る病気です。合併症の予防のため抗生剤を 10 日間飲みます。  
“とびひ”の原因菌の一つでもあります

## 原因

溶連菌は正式には「A 群溶血性連鎖球菌（A 群 β 溶血性連鎖球菌）」という細菌です

## 潜伏期

咽頭炎の潜伏期は 2～5 日間で、くしゃみなどの飛沫感染が主な感染経路です。  
とびひの場合は接触感染で潜伏期は 7～10 日間です。

## 症状

溶連菌の代表的な病気は咽頭炎や扁桃炎で、38℃以上の高熱とのどの痛み、発疹です。嘔吐が見られることもよくありますが咳や鼻水は基本的に出ません。発疹は“砂をまいたような”特徴的な発疹でかゆみがあります。とびひや蜂窩織炎といった皮膚感染症を起こすこともあります。

## 診断、治療

診断は当院では迅速検査で行い、陽性であったときは抗生物質を合計 10 日間処方します。合併症の予防も兼ねているので症状がなくなった後もすべて内服してください。迅速検査で陰性であっても溶連菌の感染が強く疑われるときには抗生剤を処方します。抗生剤を飲み始めてから 24 時間経過すれば治療効果が現れ、他の人に伝染しなくなります。内服開始後 24 時間経過し確認の診察をするまでは登園、登校はできません。

## 合併症

急性糸球体腎炎とリウマチ熱があります。

## 急性糸球体腎炎

溶連菌による咽頭炎の1～2週間後、皮膚炎の3～6週間後に発症することがあります。血尿、浮腫（むくみ）、高血圧などの症状が見られる病気です。抗生剤の投与で完全に予防できるわけではないようです。

## リウマチ熱

心炎、多関節炎、発疹（輪状紅斑）、皮下結節、神経症状などがみられる病気で、溶連菌による咽頭炎が発症してから2～4週間後に発症することがあります。溶連菌の抗生剤治療を発症後9日目までに開始すればほぼ予防できます。